

医学部

看護学プログラム ■全人的ケアができる看護職者の育成

取得できる学位 ★学士（看護学）

■ プログラムの概要

看護の対象の全人的理解と看護実践に必要な基礎的知識・技術を習得し、豊かな感性と倫理観、学術的視野を身につけ、保健医療福祉チームの一員として連携、協働できる看護専門職者を育成するプログラムである。人間の尊厳、人間愛を基盤として全人的な保健医療を目指すとともに、自律した看護専門職として社会の変化に対応し、看護を探究する看護職者の育成を理念に据えた。

■ 人材育成目標

看護学プログラムは以下の資質を有する人材の養成を目指している。

- ・看護の対象を身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな存在である人間として理解し、発達段階や健康状態、生活状態を関連させて全人的に捉えることができる人材
- ・看護職としての倫理観、豊かな感性と人間性を身につけ、援助的な人間関係を形成する能力をもち看護実践ができる人材
- ・科学的根拠に基づいた看護アセスメント能力と健康上の課題を解決するための基礎的知識ならびに基本的技術を習得した人材
- ・社会の動向や地域のニーズを把握し、保健医療福祉チームにおいて看護専門職としての責務を踏まえた指導的役割遂行の基礎的能力を有する人材
- ・世界の人々の健康な生活の実現に向け、国際的視野及び異文化看護の視点から、環日本海ならびに国際社会において看護の機能や役割を遂行できる素地を持つ人材
- ・看護について常に探求心を持ち、看護の開発・開拓のための研究的態度を身につけ、看護実践・教育に活用できる人材

■ プログラムの到達目標（期待される学修成果）

| 1 | 知識・理解

- a) 専門分野を越えた幅広い知識と深い教養。
- b) 看護の対象となる人間に係わるホリスティック（生物学的・心理学的・社会的側面を含む）な知識と理解。
- c) 看護の基盤となる人体の構造や機能、病態、治療に係わる系統的知識と理解。
- d) 健康科学、保健医療福祉活動に係わる学際的知識と理解。
- e) 現場で専門技能を応用し課題を見出し解決策を考えられる。研究に係わる基礎的知識と理解。

| 2 | 当該分野固有の能力

- a) 人間愛に基づいて対象を全人的に理解しながら信頼関係のもと対等な立場で看護実践できる。
- b) エビデンスに基づく看護過程を通して、あらゆる対象・場・状況に応じた看護介入ができる。
- c) 医療安全に関する指針等に基づいて感染を防止し医薬品や医療機器の適切な使用と安全を管理できる。

- d) 疾病予防や健康の維持増進の観点から対象（個人・家族・集団）に必要な保健指導ができる。
- e) 看護に係わる課題を探求し専門的な知識と研究手法を駆使して必要な理論を体系立て一定の結論を見出せる。

| 3 | 汎用的能力

- a) 相手を尊重しつつ誠実かつ率直に自分の気持ちや意見をわかりやすく伝えられる、自己主張ができる。
- b) チームの目標に沿って構成員の意見や行動を調整・整理し、協調性とリーダーシップが発揮できる。
- c) 基礎的な英語能力をもち、言語学習を通じて英語圏外においても活動できる資質を備える。
- d) 多文化間での活動に不可欠な異文化理解と、翻って自国の文化を客観的に洞察できる能力。
- e) 専門知識や技術をどの分野に活かせるか、社会的役割を認識しキャリアデザインに役立てられる。
- f) 調査データを解析し情報機器を駆使して情報を収集・加工し新たな解釈を見出し発信できる能力をもつ。

| 4 | 態度・姿勢

- a) 生命の尊重と個人の尊厳の保持を旨とする態度を備える。
- b) 誠意と連携・連帯の精神をもち自律的に看護を実践できる。
- c) 傾聴や対話を通して対象を共感的に理解することができる。
- d) 課題に対して主体的、客観的、創造的に取り組むことができる。
- e) 新しい知識や技術を学び看護を探求し続けることができる。

■ プログラムの履修要件

- ・医療や健康の保持増進に関心があり、協調性豊かな人
- ・人々の生活と社会に深い関心を持ち、人間愛に満ちた人
- ・生涯にわたって学習し、成長していきたいという意欲がある人
- ・医療と看護に関する科学的知識と技術の習得に熱意を持つ人

■ カリキュラム立案と学修方法についての基本方針

- ・看護の対象の全人的理解と看護実践に必要な基礎的知識・技術を修得するための教養教育・専門基礎科目・専門科目の設置、豊かな感性と倫理観、学際的視野を身につけるための専門科目の設置、保健医療福祉チームの一員としていずれの国、いずれの状況にあっても連携、協働できる看護専門職者となるための専門科目（選択科目や統合科目）を設置している。
- ・国家試験受験資格に係る看護師教育課程と保健師教育課程の科目は必修とし、助産師教育課程の履修は選択制としている。
- ・教育課程における学修方法・学修過程は、初年次教育として教養教育、看護学の基礎領域の講義ならびに実習を組み、アーリー・エクスポージャーによる看護職者としての自覚・学習意欲の向上を図ることを意図している。専門科目は学年進度にあわせて学習の難易度を考慮するとともに、科目の形態としては「講義・演習・実習」の順番で段階的に学ぶカリキュラムとしている。
- ・学修方法として、グループ学習、課題学習、プレゼンテーション、討論、リフレクション等の形態を組み入れて主体的に学ぶことができるように計画している。
- ・最終年次には看護研究を通じて課題探究力、研究計画立案、倫理的配慮を重点的に学ぶことができるよう専門科目を配置している。